

# 脈拍記録を活用した反応の理解

## 教科・場面

情報

- ①グループ、②訪問

## 授業・実践のねらい

- ・かかわりに気づき、注意を向ける
- ・刺激や変化を感じ、表情や身体の動き等で好き嫌いを伝える
- ・自身の気持ちが伝わる経験をつむ

## 対象の児童・生徒

### ① Bグループ

グループチェックリストの「間接的に関わることで、児童の表出を促す。(周りの変化に気付く。音、光等)」に該当する児童6名。

### ② 訪問

グループチェックリストの「直接的に関わることで、児童の表出を促す。(揺れや振動に気付くなど)」に該当する医療的ケアが必要な児童1名(呼吸器使用)。触覚・視聴覚刺激に対して筋緊張を亢進させたり、視線を動かしたり、と身体的反応がある。

## 教材・教具

- ・iPad に脈波が表示されるパルスオキシメーター(有線 or 無線)を使用した。



有線版 (iSpO<sub>2</sub>)

無線版 (MightySat™ Rx)

Masimo 社製

## 工夫したところ

- ①ビデオ記録と合わせて確認することで、自身の授業に対する反応を振りかえる機会にした。
- ②iPad に表示させる脈波を時折見たことで、その時々々の反応を声でフィードバックした。

## 授業展開・教材の使い方・実践の内容など

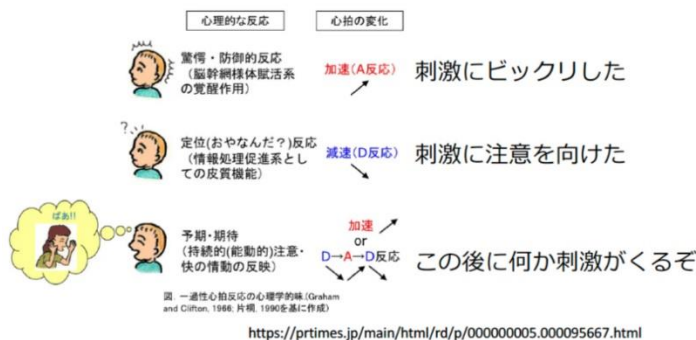
### 脈波の見方

#### ステップ1：基準値の確認

かわり前(無刺激)の値を基準値とする

#### ステップ2：かわり直後の脈拍変化の確認

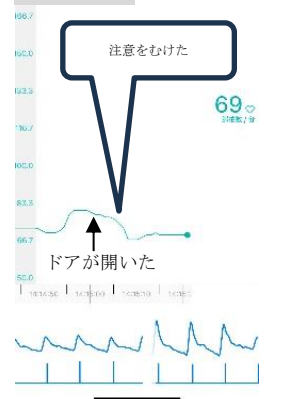
脈拍数の増加と減少に着目する ※表情や行動を見落とさない程度で



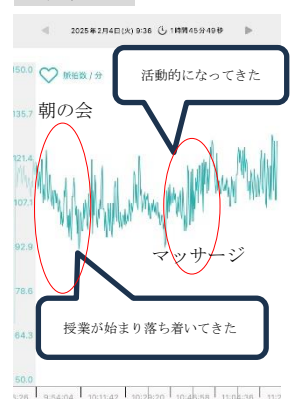
#### ステップ3：授業中の覚醒・活動水準の確認

動画記録と合わせて活動への参加度を確認する

#### ステップ2



#### ステップ3



- 脈拍が基準値より高値で推移→覚醒・活動水準が高い
- 脈拍が基準値より低値で推移→覚醒・活動水準が低い

## 授業・実践を通じた児童生徒の変容

- 児童：①関わりに対する反応に教師が気づき、声かけやかかわりを変更することでびっくりする反応が減少した  
 ②活動中の反応をフィードバックされる機会が増えたことで、教師からの声かけに注視することが増えた
- 教師：①児童の反応を客観的に見たときに、自分の見立てが合っていたのかを一定確かめることができた  
 ②「反応がない＝眠いかな？」や「表情が曇った＝痛かったのかな？」等を別の観点から確認できた